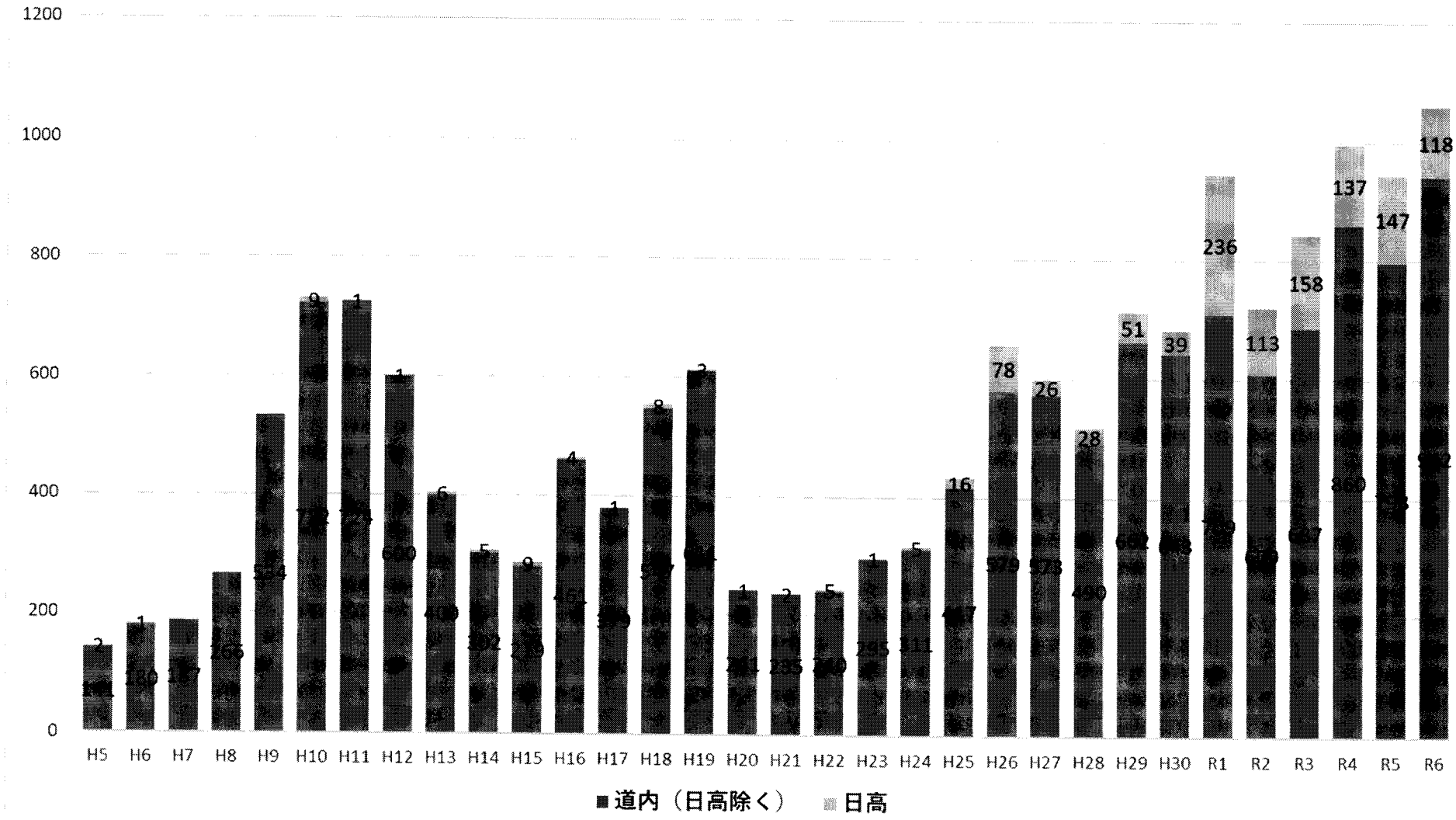
令和８年度家畜衛生推進会議

参考資料（別冊）

・令和５～９年度 家畜伝染病予防法第５条に基づくヨーネ病検査計画 ・・・P1
・「年次別」牛のヨーネ病発生頭数 ・・・P2
・ヨーネ病について ・・・P3～4
・令和７年次　監視伝染病発生状況 ・・・P5
・令和７年度　国内における高病原性及び低病原性鳥インフルエンザ発生状況 ・・・P6
・馬インフルエンザについて ・・・P7～8
・令和８年度　使用料・手数料単価一覧 ・・・P9～11
・令和８年度　牛ヨーネ病自主検査日程 ・・・P12
・上がり馬における馬鼻肺炎 CF 検査（ERV-CF）の見直しについて ・・・P13
・【様式】家畜の導入計画（別紙１） ・・・P14
・【様式】移入家畜導入計画書(別紙７) ・・・P15

日高管内　家畜伝染病予防法第5条検査計画（令和5～9年度）

		R5	R6	R7	R8	R9
町	畜種	項目	項目	項目	項目	項目
日高町（日高地区）	乳牛	ヨーネ				
	肉牛	ヨーネ				
日高町（門別地区）	乳牛					ヨーネ
	肉牛					ヨーネ
平取町	乳牛				ヨーネ	
	肉牛				ヨーネ	
新冠町	乳牛		ヨーネ			
	肉牛		ヨーネ			
新ひだか町（静内地区）	乳牛			ヨーネ		
	肉牛			ヨーネ		
新ひだか町（三石地区）	乳牛			ヨーネ		
	肉牛			ヨーネ		
浦河町	乳牛	ヨーネ				
	肉牛	ヨーネ				
様似町	乳牛	ヨーネ				
	肉牛	ヨーネ				
えりも町	乳牛	ヨーネ				
	肉牛	ヨーネ				
管内全域	種畜	ヨーネ				


「年次別」牛のヨーネ病発生頭数
1200
1000
800
600
400
200
0
H5 H6 H7 H8 H9 H10 H11 H12 H13 H14 H15 H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23 H24 H25 H26 H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6
■道内（日高除く） ■日高

ヨーネ病について

令和８年３月

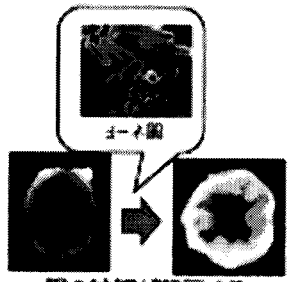
北海道日高家畜保健衛生所

日高管内はヨーネ病の発生が多い

	牛の飼養頭数 (R6.2.1現在)	ヨーネ病発生頭数 (R6年次)
日高	21,467	118
全道	1,357,931	1060

**日高管内のヨーネ病の発生率は、
頭数ベースで全道の約７倍**

ヨーネ病の症状



腸の粘膜が肥厚する

慢性の下痢と削痩

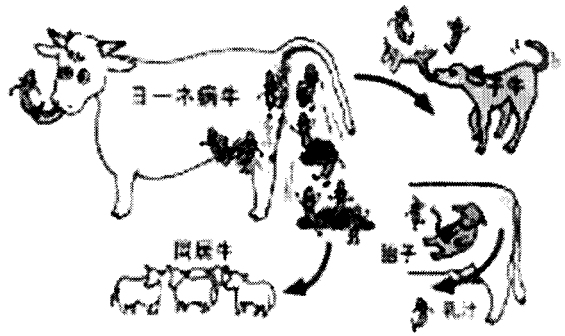
症状は下痢、大腸の肥厚、削痩、死亡

感染から発症まで数年以上かかる

妊娠・分娩などのストレスが発症の引き金

ワクチン、治療法がない

ヨーネ菌の感染経路



感染した牛からのヨーネ菌の排泄は発症前から始まる

糞便中のヨーネ菌が牛の口に入ることで感染する

多くは６か月齢以下の幼若期に感染

ヨーネ菌の性質

- 環境中で長期間生きている

池の水：約２７０日
乾燥糞便中：約８ヶ月
糞便・黒土の中：約３３０日
凍結下：１年以上

６０℃以上、３０分で死滅
完熟堆肥中では発酵熱により死滅

- 消毒薬が効きにくい

塩素系消毒薬（ビルコンを除く）、消石灰が有効

ヨーネ病が多発する要因

外部から頻繁に牛を導入している
→ 気づかないうちにヨーネ感染牛が導入されている

分娩場所の除糞が充分でない、消毒していない
哺育牛を母牛以外の成牛と群飼している
哺育牛がいる牛床、パドックの除糞が不十分
→ 長期にわたり、複数の成牛の糞便が、哺育牛の口に入る

ヨーネ病発症牛の発見遅れ、見逃し
→ 発症牛と同居している牛の口に大量のヨーネ菌が入る

ヨーネ病対策

外部から頻繁に牛を導入しない
導入牛は隔離し、ヨーネ病検査を受ける

分娩場所を使用毎に清掃・消毒し、敷料を充分に入れる

早期に親子分離させる、哺育牛と母牛以外の成牛と接触させないで飼養するなど、哺育牛と成牛の接触をなるべく減らす

牛床を適切な頻度で清掃・消毒する
飼槽・水槽を適切な頻度で清掃・消毒する

成牛の軟便～下痢についてはヨーネ病も疑う

ヨーネ病対策（施設の改良）

飼槽のコーティング

牛舎の壁、床等への石灰乳塗布

石炭灰によるパドック改良

令和7年次　監視伝染病発生状況（R7.1.1～R7.12.31　※北海道はR7.1.1～.11月末）

家畜伝染病（法定伝染病）

病　名	家畜の種類	日高			北海道　※	
		戸数	頭羽群数	発生場所	戸数	頭羽群数
ヨーネ病	牛	30	87	日高町、新冠町、浦河町、えりも町、新ひだか町	225	863
ヨーネ病	山羊				2	15
伝達性海綿状脳症	めん羊					
高病原性鳥インフルエンザ	鶏				2	4
高病原性鳥インフルエンザ(疑似患畜)	鶏				2	684, 275

届出伝染病

病　名	家畜の種類	日高			北海道　※	
		戸数	頭羽群数	発生場所	戸数	頭羽群数
牛ウイルス性下痢	牛				20	35
牛ウイルス性下痢（疑症）	牛				4	5
牛伝染性リンパ腫	牛	37	61	日高町、平取町、新冠町、浦河町、えりも町、新ひだか町	242	701
牛伝染性リンパ腫（疑症）	牛	1	1		2	3
牛丘疹性口炎	牛				4	10
破傷風	牛	1	1		2	3
	馬				2	6
破傷風（疑症）	牛				1	1
気腫疽	牛				3	107
気腫疽（疑症）	牛				1	1
牛伝染性鼻気管炎	牛				2	6
サルモネラ症	牛				44	77
馬鼻肺炎（異常産）	馬	9	11	日高町、新冠町、浦河町、新ひだか町	10	12
馬鼻肺炎（呼吸器病・疑症）	馬	1	4	日高町	1	4
馬インフルエンザ	馬				3	13
豚丹毒	豚	1	12	新冠町（と場発生）	6	36
バロア病	蜂				29	1353
チョーク病	蜂				23	251

令和7年度 国内における高病原性及び低病原性鳥インフルエンザ発生状況

MAFF 農林水産省

○野鳥 1道14県101事例

※詳細は環境省HP参照 https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird_flu/

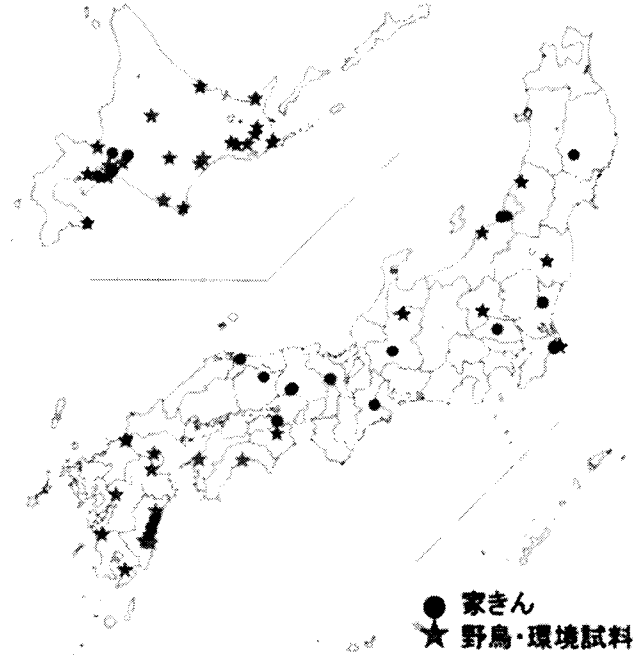
	検体回収場所	検体回収日	種名	病原性	亜型
1	北海道苫小牧市	10/15	オオタカ	HPAI	H5N1
2	宮崎県日南市	10/22	ヒドリガモ	HPAI	H5N1
3	北海道釧路市	10/23	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
4	北海道浦幌町	10/25	タンチョウ	HPAI	H5N1
5	北海道千歳市	10/23	オオハクチョウ	HPAI	H5N1
6	宮崎県延岡市	10/27	ヒドリガモ	HPAI	H5N1
7	北海道根室地域	10/27	シマフクロウ	HPAI	H5N1
8	北海道標茶町	10/30	オオハクチョウ	HPAI	H5N1
9	北海道鶴居村	10/31	タンチョウ	HPAI	H5N1
10	北海道中標津町	10/30	タンチョウ	HPAI	H5N1
11	山梨県三川町	11/5	ノスリ	HPAI	H5N1
12	鹿児島県出水市	11/3	環境試料（水）	HPAI	H5N1
13	鹿児島県出水市	11/3	環境試料（水）	HPAI	H5N1
14	北海道標茶町	11/2	オオハクチョウ	HPAI	H5N1
15	北海道浦幌町	10/31	オオハクチョウ	HPAI	H5N1
16	北海道仁木町	11/2	オジロワシ	HPAI	H5N1
17	北海道別海町	11/4	ハクチョウ類	HPAI	H5N1
18	宮崎県宮崎市	11/5	ヒドリガモ	HPAI	H5N1
19	宮崎県日南市	11/6	ヒドリガモ	HPAI	H5N1
20	宮崎県国富町	11/6	ハヤブサ	HPAI	H5N1
21	北海道浦別町	11/7	オオハクチョウ	HPAI	H5N1
22	鹿児島県出水市	11/10	環境試料（水）	HPAI	H5N1
23	鹿児島県出水市	11/10	環境試料（水）	HPAI	H5N1
24	新潟県新潟市	11/12	コハクチョウ	HPAI	H5N1
25	鹿児島県出水市	11/10	ナベヅル	HPAI	H5N1
26	福岡県北九州市	11/11	キンクロハジロ	HPAI	H5N1
27	静岡県富士市	11/12	オオタカ	HPAI	H5N1
28	北海道浦別町	11/11	オオハクチョウ	HPAI	H5N1
29	鹿児島県阿久根市	11/12	ヒドリガモ	HPAI	H5N1
30	北海道標茶町	11/12	オオハクチョウ	HPAI	H5N1
31	北海道浦幌町	11/12	タンチョウ	HPAI	H5N1
32	新潟県新潟市	11/14	ハクチョウ類	HPAI	H5N1
33	福島県矢吹町	11/14	オオハクチョウ	HPAI	H5N1
34	鹿児島県出水市	11/16	ナベヅル	HPAI	H5N1
35	鹿児島県出水市	11/17	環境試料（水）	HPAI	H5N1
36	鹿児島県出水市	11/18	ナベヅル	HPAI	H5N1
37	鹿児島県出水市	11/19	ナベヅル	HPAI	H5N1
38	鹿児島県出水市	11/20	ナベヅル	HPAI	H5N1
39	北海道旭川市	11/18	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
40	北海道浦別町	11/19	オオハクチョウ	HPAI	H5N1
41	宮崎県日南市	11/19	ヒドリガモ	HPAI	H5N1
42	宮崎県日南市	11/21	ヒドリガモ	HPAI	H5N1
43	鹿児島県出水市	11/21	ナベヅル	HPAI	H5N1
44	鹿児島県出水市	11/24	環境試料（水）	HPAI	H5N1
45	北海道札幌市	11/28	ハシブトガラス	HPAI	H5
46	北海道釧路市	11/27	ハシボソガラス	HPAI	H5N1
47	大分県別府市	12/1	カイツブリ	HPAI	H5N1
48	鹿児島県出水市	11/26	ナベヅル	HPAI	H5N1
49	鹿児島県出水市	11/26	マナヅル	HPAI	H5N1
50	北海道芽室町	12/1	オオハクチョウ	HPAI	H5N1
51	鹿児島県出水市	11/30	ナベヅル	HPAI	H5N1
52	鹿児島県出水市	12/1	環境試料（水）	HPAI	H5N1
53	鹿児島県出水市	12/3	ナベヅル	HPAI	H5N1
54	高知県高知市	12/8	オナガガモ	HPAI	H5N1
55	鹿児島県出水市	12/7	ナベヅル	HPAI	H5N1
56	鹿児島県出水市	12/8	環境試料（水）	HPAI	H5N1
57	鹿児島県出水市	12/8	環境試料（水）	HPAI	H5N1
58	鹿児島県出水市	12/12	ナベヅル	HPAI	H5
59	鹿児島県出水市	12/15	環境試料（水）	HPAI	H5N1
60	宮崎県宮崎市	12/12	カモ類	HPAI	H5N1
61	徳島県吉野川市	12/17	オシドリ	HPAI	H5N1
62	北海道札幌市	12/8	ハシブトガラス	HPAI	H5
63	北海道札幌市	12/22	ハシブトガラス	HPAI	H5
64	鹿児島県出水市	12/22	環境試料（水）	HPAI	H5N1
65	宮崎県新富町	1/5	マガモ	HPAI	H5
66	北海道伊達市	12/28	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
67	北海道苫小牧市	1/2	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
68	鹿児島県出水市	1/5	環境試料（水）	HPAI	H5N1
69	北海道札幌市	1/7	ハシブトガラス	HPAI	H5
70	北海道えりも町	1/7	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
71	宮城県大崎市	1/10	ノスリ	HPAI	H5N1
72	北海道伊達市	1/13	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
73	北海道苫小牧市	1/13	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
74	北海道伊達市	1/18	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
75	北海道苫小牧市	1/18	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
76	千葉県東庄町	1/17	環境試料（水）	HPAI	H5
77	北海道伊達市	1/25	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
78	北海道苫小牧市	1/27	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
79	熊本県玉名市	1/31	クロツラヘラサギ	HPAI	H5N1
80	北海道伊達市	2/2	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
81	北海道札幌市	1/8	ハシブトガラス	HPAI	H5
82	北海道札幌市	1/9	ハシブトガラス	HPAI	H5
83	北海道札幌市	1/12	ハシブトガラス	HPAI	H5
84	大分県豊後高田市	2/3	マガモ	HPAI	H5N1
85	北海道札幌市	1/15	ハシボソガラス	HPAI	H5N5
86	北海道函館市	2/7	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
87	北海道苫小牧市	2/7	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
88	北海道伊達市	2/8	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
89	北海道函館市	2/10	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
90	北海道函館市	2/12	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
91	北海道苫小牧市	2/12	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
92	北海道伊達市	2/14	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
93	千葉県東庄町	1/31	環境試料（水）	HPAI	H5
94	宮崎県宮崎市	2/18	ハヤブサ	HPAI	H5N1
95	北海道伊達市	2/24	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
96	福島県矢吹町	2/24	オオハクチョウ	HPAI	H5N1
97	富山県上市町	2/27	フクロウ	HPAI	H5
98	北海道札幌市	2/24	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
99	北海道札幌市	2/27	ハシブトガラス	HPAI	H5
100	北海道伊達市	3/2	ハシブトガラス	HPAI	H5
101	北海道函館市	3/2	ハシブトガラス	HPAI	H5

※HPAI：高病原性鳥インフルエンザ LPAI：低病原性鳥インフルエンザ

○家きん 1道1府12県21事例 （令和8年3月5日15時現在）

※ 疑似患畜確認時の羽数

	地域	疑似患畜判定日	用途	羽数（約）	亜型
1	北海道白老町	10/22	採卵鶏	45.9万羽	H5N1
2	北海道恵庭市	11/2	採卵鶏	23.6万羽	H5N1
3	新潟県胎内市	11/4	採卵鶏	63万羽	H5N1
4	新潟県胎内市	11/9	採卵鶏	28万羽	H5N1
5	宮崎県日向市	11/22	肉用鶏	4.8万羽	H5N1
6	鳥取県米子市	12/2	肉用鶏	7.5万羽	H5N1
7	兵庫県豊岡市	12/16	採卵鶏	24万羽	H5N1
8	岡山県津山市	12/20	採卵鶏	43万羽	H5N1
9	京都府亀岡市	12/24	採卵鶏	28万羽	H5N1
10	茨城県城里町	12/25	採卵鶏	97万羽	H5N1
11	北海道由仁町	12/29	採卵鶏	0.6万羽	H5N1
12	埼玉県鳥山町	12/30	採卵鶏	24万羽	H5N1
13	宮崎県延岡市	1/2	肉用種鶏	0.6万羽	H5N1
14	兵庫県豊岡市	1/8	採卵鶏	15.5万羽	H5N1
15	香川県東かがわ市	1/10	採卵鶏	2.4万羽	H5N1
16	三重県津市	1/13	採卵鶏	2.5万羽	H5N1
17	岐阜県関市	1/22	肉用鶏	2万羽	H5N1
18	千葉県旭市	1/27	うずら	10.8万羽	H5N1
19	千葉県旭市	2/20	採卵鶏	6万羽	H5N1
19関連	千葉県旭市	2/20	採卵鶏	2万羽	-
20	岩手県金ケ崎町	2/21	採卵鶏	56万羽	H5N1
21	北海道安平町	3/5	肉用鶏	18.8万羽	H5



● 家きん
★ 野鳥・環境試料

※ 野鳥・環境試料において陽性事例が確認された市町村をプロット

馬インフルエンザ

届出伝染病

原因（病原体）

馬インフルエンザウイルス（H3N8亜型またはH7N7亜型）
※ただし、H7N7亜型は世界中で40年以上報告されていない。

感受性動物

馬（人の発症例は報告されていない）

症状

飛沫感染により急速に伝播し、2～3日の潜伏期の後、39～41℃の発熱、激しい乾性の咳、水様性鼻汁等の呼吸器症状、元気消失、食欲不振などがみられる。通常は２～３週間で回復する。

発生状況

（1）国内

- 1971年～1972年に競走馬や乗用馬で流行。
- 2007年～2008年に33都道府県で2,512頭の発生届出（疑症を含む）。
- 2025年4月、熊本県と北海道の重種馬等で発生確認（5月8日時点で36頭が届出）。

（2）海外

世界的に流行（特に北米や欧州）

出典：（国）農研機構動物衛生研究部門

予防法

市販のワクチン（不活化ワクチン）が存在。

治療法

対症療法が中心。

対策

- ワクチン接種の励行。
- 発症馬の早期発見と診断。
- 本病が確認された場合は、発症馬の隔離、同居馬の移動自粛、感染馬が飼養される厩舎及び用いられた器具等の消毒を徹底。

馬飼養者の皆様へ

令和７年４月８日に熊本県において、国内で平成20年（2008年）以来となる馬インフルエンザが発生し、更に４月25日には北海道帯広市で本病が発生しました。

馬インフルエンザは非常に伝染力が強い急性のウイルス性伝染病です。本病の侵入防止及びまん延防止のため、各農場では以下の点に注意してください。

日常の衛生管理

- 厩舎の出入り口には踏み込み消毒槽を設置し、長靴を消毒しましょう。
- 厩舎内には消毒用手洗い器を置きましょう。消毒薬はパコマ・クリアキルなどの逆性石けんが有効です。
- 馬運搬車は、使用の都度に清掃・消毒しましょう。
- 関係者以外の厩舎内への立ち入りを制限しましょう。
- 異常馬の早期発見・早期隔離が最も重要です。飼養馬の健康状態をよく観察しましょう。

移動してきた馬の管理

- 発生地からやむを得ず馬を導入する前には馬インフルエンザの検査を実施し、陰性を確認しましょう。また、導入後は７日間隔離し、３日目・７日目に獣医師の検査を受けましょう。
- 発熱、咳、鼻汁、元気・食欲の有無など、健康状態をよく観察しましょう。
- 異常が認められたら、獣医師の診察を受けましょう。
- インフルエンザワクチンの接種歴を確認しましょう。

次のような症状が認められたら、速やかに
かかりつけ獣医師の診察を受けてください！！

元気消失・食欲不振
水様の鼻汁

３９℃～４１℃の発熱
胸の奥から発するような激しい咳

日高家畜保健衛生所
（Tel:0146-42-1333）

令和8年度使用料・手数料単価一覧

○　北海道家畜保健衛生所条例等

（病性検定使用料・手数料）

項目	単価
病性検定使用料	
器具機械使用料	1,040
保冷保管庫使用料	1,780
病性検定手数料	
病性検定手数料（病理解剖検査）	5,950
病性検定手数料（鏡検）	780
病性検定手数料（一般培養）	1,330
病性検定手数料（特殊培養）	3,400
病性検定手数料（一般血清反応検査）	820
病性検定手数料（特殊血清反応検査）	3,220
病性検定手数料（病理組織学的検査）	2,950
病性検定手数料（一般理化学的検査）	1,400
病性検定手数料（特殊理化学的検査）	3,160
病性検定手数料（特殊遺伝子学的検査）	6,680
病性検定手数料（解剖を含む総合病性検定）	10,980
病性検定手数料（解剖を含まない総合病性検定）	7,670
病性検定手数料（特殊血清・遺伝子学的検査）	4,400
病性検定手数料（特殊遺伝子・遺伝子学的検査）	7,340
病性鑑定手数料（証明書）	500
病性鑑定手数料（特別診断：100km未満）	5,790
病性鑑定手数料（特別診断：100km以上）	11,590
病性鑑定手数料（焼却）	29,460

令和8年度使用料・手数料単価一覧

○　北海道農政部手数料条例

（家畜伝染病予防法関係）

項目	単価
家畜等検査手数料（牛の結核の検査）	300
家畜等検査手数料（牛のブルセラ症の検査）	330
家畜等検査手数料（牛のヨーネ病の検査）	610
家畜検査手数料（牛の伝達性海綿状脳症の検査）	31,240
家畜等検査手数料（馬伝染性貧血の検査）	660
家畜等検査手数料（馬伝染性子宮炎の検査（血清反応））	410
家畜等検査手数料（馬伝染性子宮炎の検査（細菌培養））	1,810
家畜等検査手数料（豚のトキソプラズマ症の検査）	440
家畜等検査手数料（家きんサルモネラ症（ひな白痢）の検査）	60
家畜等検査手数料（腐蛆病の検査）	170
家畜等検査手数料（牛等の寄生虫病の検査）	280
家畜注射手数料（流行性脳炎（馬の基礎免疫））	470
家畜注射手数料（流行性脳炎（馬の補強））	350
家畜注射手数料（流行性脳炎（豚の基礎免疫又は補強））	420
家畜注射手数料（牛のイバラキ病予防）	300
家畜注射手数料（牛の牛流行熱予防）	300
家畜注射手数料（牛伝染性鼻気管炎予防）	260
家畜注射手数料（牛の牛ウイルス性下痢予防）	480
家畜注射手数料（炭疽予防）	250
家畜注射手数料（炭疽血清）	1,260
家畜注射手数料（豚熱予防）	350
家畜注射手数料（ニューカッスル病予防）	30
家畜注射手数料（牛等の気腫疽予防）	250
家畜注射手数料（ランピースキン病予防）	110
家畜等検査証明書等交付手数料	150
家畜注射手数料（豚熱予防液管理）	70

○　北海道農政部手数料条例

（薬機法関係）

項目	単価
動物用医薬品販売業許可申請手数料	28,290
動物用医薬品販売業許可更新申請手数料	11,610
動物用医薬品販売業許可証等書換交付手数料	2,820
動物用医薬品販売業許可証等再交付申請書	3,950
動物用医薬品配置販売従事者身分証明書交付手数料	8,480
動物用医薬品配置販売従事者身分証明書書換交付手数料	2,820
動物用医薬品配置販売従事者身分証明書再交付手数料	3,950
動物用高度管理医療機器等の販売業又は貸与業の許可申請手数料	28,290
動物用高度管理医療機器等の販売業又は貸与業の許可更新申請手数料	11,610
動物用医薬品販売従事登録手数料	10,890
動物用医薬品販売従事登録証書換交付手数料	2,820
動物用医薬品販売従事登録証再交付手数料	3,950
動物用再生医療等製品販売業許可申請手数料	28,290
動物用再生医療等製品販売業許可更新申請手数料	11,610

○　北海道農政部手数料条例

（家畜改良増殖法関係）

項目	単価
種畜証明書書換交付手数料	1,100
種畜証明書再交付手数料	1,100
家畜人工授精師免許申請手数料	2,250
家畜人工授精師免許証書換交付手数料	1,890
家畜人工授精師免許証再交付手数料	1,890
家畜人工授精所開設許可申請手数料	7,190
家畜人工授精所開設許可証書換交付手数料	1,820
家畜人工授精所開設許可証再交付手数料	1,820

令和８年度　牛ヨーネ病自主検査日程(市場上場牛・移動牛)

検査材料（血液）・書類の受付期日を次のとおりとしますので、締切を厳守してください。受付は締切日の午後４時までです。

結果通知書は、検査受付締切日から７～10日後に申請者あて送付されます。

検査年月		採血期間（締切前1週の間）	検査受付締切日
令和8年	4月	16日（木）～ 23日（木）	4月 23日（木）
	5月	14日（木）～ 21日（木）	5月 21日（木）
	6月	11日（木）～ 18日（木）	6月 18日（木）
	7月	9日（木）～ 16日（木）	7月 16日（木）
	8月	13日（木）～ 20日（木）	8月 20日（木）
	9月	9日（水）～ 16日（水）	9月 16日（水）
	10月	15日（木）～ 22日（木）	10月 22日（木）
	11月	12日（木）～ 19日（木）	11月 19日（木）
	12月	10日（木）～ 17日（木）	12月 17日（木）
令和9年	1月	14日（木）～ 21日（木）	1月 21日（木）
	2月	12日（金）～ 18日（木）	2月 18日（木）
	3月	11日（木）～ 18日（木）	3月 18日（木）

＊注意事項

・検査対象牛は、満６か月齢以上です。※採血日基準
・血液は、採材後、速やかに搬入してください。
・血液の搬入に日数がかかる場合は、血清を分離後、冷蔵で保管してください。
・血液検査で陽性となった場合は、陽性牛の糞便を採材し、遺伝子検査を実施します。

上がり馬における馬鼻肺炎（ERV）CF 検査の見直しについて

当所では、上がり馬の ERV 感染状況把握のため、抗体検査（ERV-CF 検査）を実施してきましたが、馬鼻肺炎ウイルスの常在化や馬鼻肺炎生ワクチンが普及した現在、ERV-CF 検査では感染抗体とワクチン抗体の区別が出来ないといった問題が生じています。

また、国際獣疫事務局（WOAH）のマニュアルに、検査目的別に推奨される馬鼻肺炎の検査法が下表のとおり示されているため、当所の検査方法を見直すことにしました。

馬鼻肺炎の診断には PCR 検査が推奨されていることから、令和 8 年 4 月から ERV-CF 検査の代わりに PCR 検査を実施することとします。PCR 検査は、馬鼻肺炎ウイルスを排出しているかが把握可能なため、より確実性の高い検査です。検査材料は鼻腔スワブや全血となりますが、鼻腔スワブの方が感度が良好とされています。

表　馬鼻肺炎の診断に利用可能な検査法（WOAH のマニュアルから抜粋）

方法	目的				
	集団の清浄性確認	移動前の清浄性確認	臨床症例の確定診断	有病率	ワクチン接種後の免疫状態
PCR	-	+++	+++	-	-
ELISA	+	++	++	++	++
CF	-	++	++	-	+++

+++：推奨、++：制限ありの推奨、+：限定された状況で可、-：不適

別紙1

家 畜 の 導 入 計 画

日高家畜保健衛生所長　様

住所

氏名

年度の導入計画を提出しますので、着地検査の実施及び隔離飼養等の指導をお願いします。

（輸入家畜）

導入予定月	種類	頭羽数	導入元	導入予定場所	備考
月					
月					
月					
月					
月					

（移入家畜）

導入予定月	種類	頭羽数	導入元	導入予定場所	備考
月					
月					
月					
月					
月					

別紙7

移入家畜導入計画書

年　　月　　日

日高家畜保健衛生所長　様

住所
申請者
氏名

移入家畜の導入計画について

このことについて、次のとおり家畜を移入することとしておりますので、着地検査の実施及び隔離飼育等の指導をお願いします。

記

種類		導入元	
導入予定頭数		導入予定年月日	
隔離飼養施設名		施設の所在地	
施設の使用者		選任管理予定者	
施設の面積		施設の収容可能頭羽数	
飼育方法		同居家畜のある場合はその種類と頭羽数	
その他参考事項			